

2023年7月発行

CWS JAPAN NEWSLETTER NO. 82

いつもCWS Japanの活動に温かいご支援、
ご理解をいただき、ありがとうございます

アフガニスタンで 目指す、防災のロー カライゼーション

今日ご紹介する事業は、外務省NGO連携無償資金協力の助成を受け、現地パートナー団体、国土防災技術株式会社との三者連携により、アフガニスタンのナンガハール県とラングマン県にて実施している「アフガニスタン防災力向上に向けた人材育成事業」です。

活動概要

2016年からはじまったこの事業は、洪水・地滑りをはじめとする災害に対するコミュニティ防災力向上という活動成果から、次の段階へとつなげるため、2021年1月より以下の活動3本柱の下でフェーズ2として事業を継続しています。

1. 防災インフラ整備計画・設計の技術移転および設置工事
2. 防災ボランティアの増産およびリモートセンシングや衛星画像による地形判読技術等の新たな技術移転
3. 高度防災人材育成への支援

そして、これまでの取り組みによって以下のような成果が出ています。

見えてきた成果

1. 地形判読をした上でリスク評価を行い、ハザードマップを作成できる技術が身についています。

より安全な避難場所や避難ルートをしめし、現地の防災計画に落とし込むこともできるよ

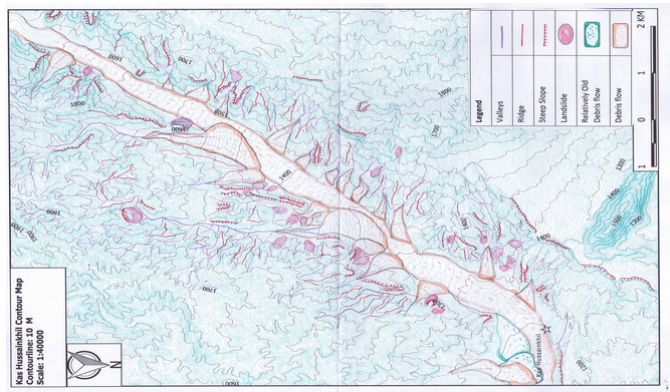
BIG ANNOUNCEMENT!

CWS JAPANは
「認定NPO法人」として
認定を取得しました。
今後、皆さまからの
ご寄付が税控除の対象
になります。



写真
Disaster Risk Reduction
Conferenceにて
©CWS

うになってきました。こういった安全な場所の特定などをする基礎力が着実に対象地域の人々の間で根付いてきています。



写真

アフガンチーム作成のハザードマップ
©CWS

2. リスクの高い場所ではリスクを削減する防災インフラを設計し、設置することができました。

わたしたちの調査によると、アフガニスタンのインフラは十分なリスク分析をしてから作られることは稀で、防災効果や耐久性にも疑問があるものが多いです。その辺は改善できるところだと思っていますので、実践や研修などを通じて変化を起こしたいと考えています。



写真

アフガン東部で設置した導流堤
(どうりゅうてい) ©CWS

3. 防災を通してコミュニティの結束が強化されています。

近年非常に大変な状況にあるアフガニスタンですが、そのような状況だからこそ、同じ志を持つ仲間づくりが重要です。毎年Disaster Risk Reduction Conference (防災会合) と称するイベントを同国首都カブールで実施し

ており、アフガニスタンの防災関係者間の結束が強化されています。

今年は、さらに住宅地や農地を守るための防護壁を設置する予定です。

また、災害リスクの調査分析を防災インフラの設計にどう結び付けるか、ガイドラインを策定中なので、広くアフガニスタンで周知したいと考えています。

さらなる展開は随時皆さんにご報告したいと思います。

(文：事務局長 小美野 剛)

アフガニスタンで食料危機に直面する人々を支える VOL.2

先月号では、わたしたちが実施したアフガニスタンで深刻な食料危機に直面している人々への支援を紹介しました。

CWS Japanは食料危機に直面している脆弱な人々に1人でも多く支援を届けられるように、特に社会経済的に権利を著しく制限されている女性を対象として支援を継続することにしました。

まだ続く深刻な食料危機

アフガニスタンでは、紛争や自然災害（干ばつ、洪水）の影響による農産物の減産や価格高騰に加え、2020年以降は新型コロナウイルス感染症（以下「COVID-19」）の影響が重なり、深刻な食料危機に見舞われています。食糧不安はすでに極限状態に達しており、国連によると、2022年時点でアフガニスタンの人々の実に95%が十分な食事がとれていないことがわかっています[1]。アフガニスタン全国で、2,830万人が人道支援を必要としており、そのなかでも食糧支援のニーズは2,120万人と分析されています[2]。

CWS Japanは前期事業に引き続き、アフガニスタンのナンガルハル県を対象地域としていますが、ナンガルハル県でも状況は深刻です。ナンガルハル県は、各分野のニーズ、深刻度、規模、分や間のニーズの重なりなどの分析の結果、アフガニスタンで支援を必要とする対象者が最も多い地域の3番目に該当します

(カブール(450万人)、ヘラート県(200万人)、ナンガルハル県(120万人)) [3]。これは、危機的かつ緊急レベルの食糧不安と栄養失調に直面している人々が都市部に集中しているためであるとされています。

また、アフガニスタンは、温室効果ガスの排出量が最も少ない国の一つですが、気候変動に対して最も脆弱な国のトップ10に入っており、その影響は、干ばつの頻度の増加としてすでに顕著になっています[4]。ナンガルハル県でも、気候変動の影響による災害の増加やそれに伴う水不足により、農業や家畜が深刻な影響を受けています。ナンガルハル県は比較的肥沃な土地で、歴史的に農畜産業に従事してきた地域であり、小麦、トウモロコシ、野菜、サトウキビなどが栽培されます。ですが、昨今の気候変動や水不足により、農業セクターの荒廃が進み、失業率と治安の問題にもつながっています。



写真
前期事業で行った現金配布の様子
©CWSA

現地で行った独自のニーズ調査の結果によると、対象地域では、伝統的に家禽(かきん)の飼育・生産がなされており、貴重な収入源になっていますが、気候変動のせいで食料面や衛生面で十分な環境が整えられず、鶏の餌が枯渇し、鶏が死亡してしまうこともあることが分かりました。当該調査の回答者全員が、対象地域には家禽の検査やワクチン接種を行う人がおらず、無料サービスもなく、治療費よりも高つくため、容易に病院のサービスを利用できないと回答しました。そのほかの課題としては、家禽の飼料、薬・ワクチン、技術的アドバイス、(えさやり、疾病管理、基本的治療、農場設立の知識)についての研修、技術用具が必要だという声があがりました。

"喫緊の食料不足といったニーズに対応するだけでなく、中長期的な食料危機への対応力を向上するための能力強化を目指します。"

事業概要

アフガニスタンのナンガルハル県の裨益世帯に対して食料へのアクセスが改善されるように緊急的な現金支援を実施します。この活動では、最も脆弱な女性およびその家族が健康的で十分な量の食料を入手できるよう、1回84米ドル相当の現金配布を2回行う計画をしています。

また、現金を受け取った裨益世帯は養鶏支援も受けることで、各世帯の収入の安定・増加を目指します。最も脆弱な女性およびその家族の収入増加のために鶏の現物支給に加え、ワクチンおよび養鶏資材の提供および意識啓発・養鶏研修を実施する予定です。

このようにして、喫緊の食料不足といったニーズに対応するだけでなく、中長期的な食料危機への対応力を向上するための能力強化を目指します。

今後、事業の進捗についてご報告させていただきますので、どうぞ、引き続き、皆さまからの温かいご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

(文：プログラム・マネージャー 西澤紫乃)

<参考文献>

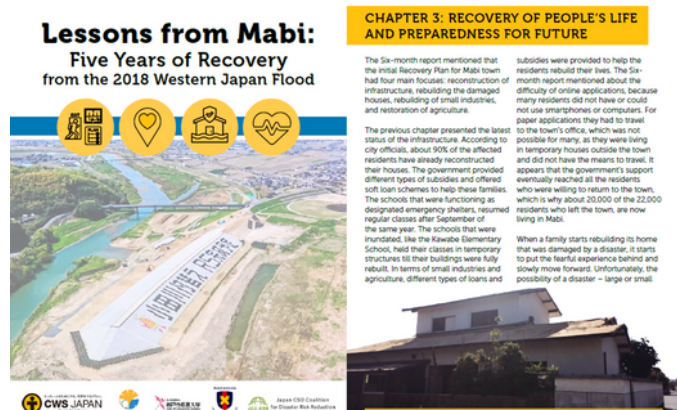
- [1] UN, Afghanistan: Food insecurity and malnutrition threaten 'an entire generation' | UN News, 12 March, 2022, アクセス日2023年4月10日
- [2] UNOCHA, Afghanistan Humanitarian Response Plan 2023 (March 2023), 9 Mar 2023, p.169.
- [3] UNOCHA, Afghanistan Humanitarian Response Plan 2023 (March 2023), 9 Mar 2023, p.21.
- [4] Afghanistan Analysis Network, The Climate Change Crisis in Afghanistan: The catastrophe worsens - what hope for action?, 6 Jun, 2022 アクセス日2023年4月14日

西日本豪雨から5年、被災地からの教訓

わたしたちCWS Japanは、日頃から災害時に支援の手が届かず取り残される人々のいない社会の実現を目指し、国内外で災害対応・防災支援を行っています。

その目標達成のために、わたしたちは支援の現場から学び続け、地域を超えて防災の教訓を発信するというアプローチを掲げています。その一環として、今回はCWS Japanも緊急支援を実施した2018年の西日本豪雨の被災地のひとつ、岡山県真備町にて復興過程から得られた教訓をレポートとして取りまとめました。

▶ Lessons from Mabi-Five Years of Recovery from the 2018 Western Japan Floodを読む◀



Lessons from Mabi-Five Years of Recovery from the 2018 Western Japan Floodの表紙と中身一部

出版物の概要

■タイトル

Lessons from Mabi-Five Years of Recovery from the 2018 Western Japan Flood

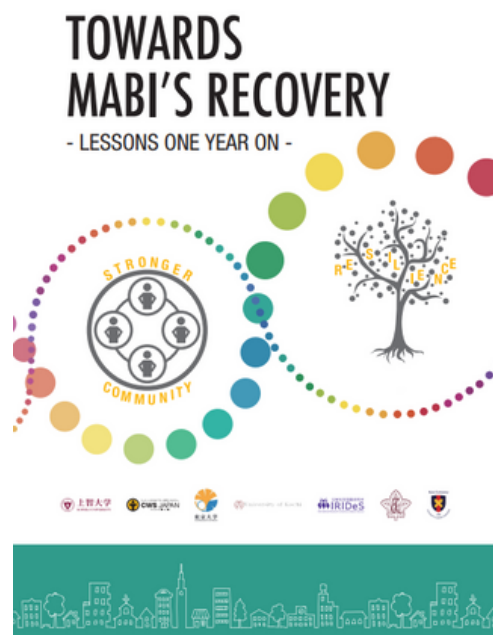
■概要

2018年7月上旬、西日本を襲った連続豪雨は、広島、岡山、愛媛を含む多くの県で壊滅的な洪水を引き起こしました。岡山県真備町は、高梁川と小田川の2つの河川が氾濫し、町の3分の1が浸水し、最も大きな被害を受けた地域のひとつです。

CWS Japanは、緊急支援に加えて、重要な教訓をまとめた報告書を発表しました。報告書“Six Months since Western Japan Flood – Lessons from Mabi”は、災害から約半年後の2019年1月に発行され、リスクコミュニケーション、早期警報、インフラ対策、避難行動、避難所、ボランティア管理などの教訓を抽出しています。震災から1年が経過した2019年7月には“Towards Mabi's Recovery – Lessons One Year On”と題した第2報を発行し、主に復興プロセスに焦点を当てました。



Six Months since Western Japan Flood – Lessons from Mabiの表紙



Towards Mabi's Recovery – Lessons from Mabiの表紙

本年7月で豪雨災害から5年目を迎えるにあたり、CWS Japanは被災地を再訪し、復興過程から得られた教訓を取りまとめました。本レポートは、初期対応から長期的な復興に至るまでの主な教訓をまとめることを目的としており、これらの教訓が関係者、専門家、実務者、そして世界中の市民社会にとって役立つことを願っています。

(文：プログラム・マネージャー 西澤紫乃)

過去のニュースレターやインタビュー記事は下記よりアクセス頂けます。

過去のニュースレターは[こちら](#)

インタビュー記事は[こちら](#)



上島 安裕 様 | 一般社団法人ピースボート...
7月 07, 2021 ■ パートナーの声

堀内 英様 | 特定非営利活動法人 国際協力...
7月 07, 2021 ■ パートナーの声



眞弓 孝之 様 | 国土防災技術株式会社事業...
6月 06, 2021 ■ パートナーの声

中村 清美 様 | 国土防災技術株式会社国際...
6月 06, 2021 ■ パートナーの声



Marvin Parvez | Reginal Director, Community World Service Asia
11月 11, 2021 ■ パートナーの声

金子信義 様 | (株)カネコ・アンド・アソシエイツ・ジャパン 代表取締役
11月 11, 2021 ■ パートナーの声

ご高覧頂き有難うございます。次回のニュースレターは8月末の発行を予定しています。

特定非営利活動法人CWSJapan
〒169-0051
東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館25号室

メールアドレス:
public@cwsjapan.jp
電話:
03-6457-6840



[CWSJapan](#)



[@Japan_CWS](#)



[cws_japan](#)